

## 特集 地域自治と市民活動 その連携の可能性 ～学園西町地域連絡会から～

9月初め、普段は通りすぎている路地を通りかかった際、空き家と見紛う家や更地、新築住宅や時間貸し駐車場を目にしました。このような街の移り変わりは把握されているだろうか、その過程に地域が抱える課題があるのではないかなど色々なことを考えました。そんな折、この地区の「地域連絡会」がNPO法人化した自治会の視察で埼玉県鶴ヶ島市に行ったと聞き、担当課の地域振興部市民協働・男女参画推進課と自治会長さんにお話を伺いました。

### ■学園西町地区地域連絡会が立ち上がる

市が平成24年3月に市内全域で自治会懇談会を行ったところ、加入率の低下や役員の担い手不足など自治会の維持・運営の困難さが課題として出されていました。多様化複雑化する社会の課題を解決するには、さまざまな立場で地域に関わる団体の多様な視点と英知の結集が必要と、平成25年2月、地域文化課（当時）がよびかけて、モデル地区第1号として学園西町地区で「地域連絡会」が立ち上がりました。この地区には5,500世帯が暮らしていて、そのうち約1,900世帯が自治会に加入しています（市内最大）。「地域連絡会」では、自治会の他に多様な組織が3～4ヶ月に一度集まり、最初はお互いの活動を知るところからスタートしました。それぞれが地域の課題と思っていることを出しあう中で、地域防犯やコミュニティ・ビジネス、地域の居場所などについて学び、また同じ地域内にあるのにあまり知らなかった国際交流協会の話を知ると、回を重ねて交流を深めてきました。



### ■地域内のつながりがより一層広がって

自治会長の黒河内正斌さんによると、昔は自治会の行事と言えば親睦の日帰り旅行くらいでしたが、「会費（¥1,500/年）を集めているからには、何をやっているのか住民に知ってもらわねば！」と、イベントをやったり新聞を発行したり、また赤ちゃん誕生の時と小学校入学時、そして88歳の時に自治会からお祝い金を渡している（自己申告制）そうで、顔の見える関係を築こうと今までもさまざまな努力をしていることがわかりました。「地域連絡会」に参加したことによって、エリア内の小・中学校の交通安全教室に自治会も乗り入れたり、自転車整備の協力関係ができた、商店街のフリーマーケットに青少対が出店したりと、それまで接点のなかった人達とつながりができたことがとても良かったようです。

### ■NPO法人格を取得した自治会の事例を視察

今年に入ってから「地域連絡会」の今後の方向性を検討してきました。そして7月、自治会がNPO法人格を取得して地域自治を進めている埼玉県鶴ヶ島市に視察に行きました。鶴ヶ島市立第二小学校区（3,000世帯7,200人）にある10の自治会では、従来からさまざまな行事を行っていましたが、防災訓練のやり方がバラバラだったことから自治会を連携させる組織の必要性を強く感じ、平成20年に避難所運営委員会を立ち上げ、平成23年7月には地域全体で支えあう新たな地域づくりを目指して地域支え合い協議会を発足させました。そして平成25年8月、責任ある活動を継続して行うためにNPO法人鶴ヶ島市立第二小学校区地域支え合い協議会を設立したのです。取得した理由は3つ。①法人化すれば役員が連帯して責任を負える ②団体の予算や資金を徹底的に透明化したい ③業務委託を受けることができる（地域の人材活用の幅が広がる）です。防災をメインに据えながら、見守り声かけ活動や会食サロンなど、宿題サロン・子育てサロンやプレーパーク、地域通貨“ありがとう券”の活用などの活動をしている他、内外への積極的な広報や、市へまちづくり意見書なども提出。また、地域の環境教育施設「e コラボつるがしま」の一部業務を受託しています。発足当初は自治会の上部組織と思われる反発もありましたが、「自治会同士の連携をお世話する団体」と説明し理解を得ていったようです。

### ■そして学園西町地区では

黒河内さんは、「見学して一番いいと思ったところは“防災”の取り組み。うちの地区にも取り入れられないか。“居場所”も魅力的だが、両方並行するのかわどちらかに絞るのか。地域には色々な能力のある方々がいるので、人材活用も考えながら今後の世代交代も視野に入れて考えたい。」と仰っていました。市としては、この地域連絡会を母体に、地域が自主的に地域運営を行う「地域協議会」が立ち上がることを目指していますが、学園西町の場合はまだ賛否両論、不安もあり方向性は決まっていないようです。今後さまざまな組織が連携して地域の課題を解決していく過程では、個人情報や組織の風土の違いによるコミュニケーションの難しさのほか、資金や物の面でも乗り越えなければならないことが多いと思われますが、中間支援組織や行政のサポートも得ながら、住み良い街になるように展開していけばいいなと思いました。（田原）